

●タイトル「お互いに好きなことが出来るように、応援し合おう！」

1、エピソードの要約（185／200 文字以内）

「お互いに好きなことが出来るように、応援し合おう！」
プロポーズした主人は2年前にこの世を去りました。

主人は病気がわかった時も落ち込む私を応援してくれました。

経済的・精神的にも苦しかった時には父親が応援してくれました。
話を聞いてくれた友達や仲間がいました。

主人に恩返しはできないけれど
恩送りの形で今度は私が応援したい。

居心地のよい 寄り添う気持ちで

何もできなかった私にもできたから、大丈夫だよって。

2、エピソード内容（1972 文字）

「お互いに好きなことが出来るように、応援し合おう！」

2年前に他界した主人のプロポーズの言葉。
嬉しくて、涙が溢れてきたのを覚えています。

私は、幼い頃から父親が作った鳥カゴの中で生活をする環境にありました。

父親は男尊女卑で「俺の言う通りにしろ」と、意見を言うことさえ許しませんでした。
苦しかった。大っ嫌いな父親でした。私の心は窮屈でした。

そんな環境を変えてくれた人がいました。
それが、主人だったのです。

応援しあおう！

その一言で私ははじめて羽を伸ばすことができました。自由になれたんです。

『当たり前になると感謝を忘れる』とはよく言われるものです。

主人と私は、2 人の子に恵まれ、幸せを絵に描いたような生活を送っていましたが、幸せの生活はいつしか当たり前になりました。主人が応援し続けてくれる事も忘れて、私は、自分に必死な毎日を何年も何年も送るようになっていました。

そんなある日、

会社にいる主人から一本の電話。

調子が悪いから帰る...

帰宅した主人はその日、家の中で意識を失い倒れました。
病名は、悪性脳腫瘍。それも、5 年も生存しない、悪性度の高いガンでした。

信じられない。嘘でしょ...

突然訪れたこの状況を私は冷静に受け止めることができませんでした。
家族の心がそれぞれ、真っ黒な暗闇に崩れ落ちていくような感覚でした。

そんな状況を救ったのも主人でした。

今まで涙を見せることのなかった主人は、電話の向こうで泣いていました。病院から病名を私に伝える一度だけ...

帰宅した時には、涙ひとつ見せずにドーナツを買ってきてくれました。
家族に明るく振る舞い、言葉をかけてくれました。

自分の病気の事で日々悲しんで過ごすのではなく、毎日を楽しんで欲しいと...
お互いに応援しあおう！と...

プロポーズの言葉に嘘はありませんでした。
主人はどんな状況に置かれても応援しようとしていました。

応援する人は応援され、応援は応援を呼ぶ。

癌治療は、肉体だけではなく、精神的・経済的にも厳しく、家計も圧迫し続けました。
そんな時、声をかけてくれたのが大嫌いな父親でした。

厳格で、私を傷つけてきたあの父親です。

「家を売ってでも治療費をつくるから言ってくれ!辛い事は一人で背負わず、俺と一緒に背負うから」

と、言ってくれたのです。それからは、父親は私を誰よりも支え、応援してくれたのです。

それだけではありません。私の周りには、いつでも話を聴いてくれる友達や、美味しいものを買ってきて気分転換をさせてくれる仲間がいました。私のためにたくさん応援してくれました。

これらの応援は、主人への応援でもあったと思います。

応援する人は応援され、応援は応援を呼ぶ

私が人生で学んだ大切なことの一つです。
たくさんの方から元気をいただき

この環境はマイナスなことじゃない。
今、私を支えてくれる、想ってくれる人がたくさんいるんだ。
今のあるものを見よう。
今のあるものに感謝しよう。

辛い時こそ...
今「ある」に感謝する!

そう口ずさみ、私の心も少し前向きになれたのです。

しかし、
2020年の冬。
応援しあおうと言ってくれた主人は眠るように息を引き取りました。

今「ある」に感謝する...

私は、主人の眠る顔をみながら心からのありがとうを伝えました。
たくさんの応援でこれまで歩めた人生。
挫けそうな時も歩めたのは私の力ではなく、周りからの応援でした。

主人もその一人。最も近くで応援し続けてくれた主人に恩返ししたかった。

その想いが叶うことはありませんが、主人が私にしてくれたように
今度は私が恩送りとしてできることをやっていきたいと少しずつ思うようになりました。

闘病生活中に私が救われたのは誰かに話せること、聴いてもらえることでした。
仕事などの話ではなく、たわいのない日常の話。
そこには居心地のよい空間があったことに気づいたのです。

誰かに話せること、聴いてもらえる機会をもっと多くの人が数多く味わい、この価値に気づいて
もらいたい。そう思ったのです。

日常のなにげない出来事を話しながら、居心地のよい空間をイメージできる言葉ってなんだろう。

話す...語る...つぶやく...

私のイメージする言葉はなかなか見つかりません。
そして、ある時ふっと頭の中に浮かびました。

これだ！

ようやく見つかった言葉。それが、「だべる」でした。大正から昭和にかけて流行した言葉です。

だべることを再認識する機会を提供し、多くの人にだべる機会をつくって応援したい！
2022年、私は”だべりケーション”を提唱し、新たな一步を踏み出しました。

これからの私の歩みを見届けてください。
今度は私がたくさんの人の応援者になります。

何もできなかった私にもできたから、大丈夫だよって。

3 メッセージ

私の応援のカタチ、それは居心地のよい空間をつくること。
応援する人は応援され、応援は応援を呼ぶ
ことを私のエピソードをきっかけに感じてください。